

土木学会 新しい高性能鋼と利用技術に関する調査研究小委員会（第6回）議事録（案）

日 時：平成20年4月16日（水）14:00～18:00

場 所：土木学会F会議室

出席者：本間宏二、小西拓洋（欠）、酒井修平（欠）、市川篤司（欠）、保坂鐵矢、千葉照男、藤原 良憲、白旗弘実、山口栄輝、多田賢、齋藤聡、鷹羽新二（欠）、澁谷敦、渡邊秀貴、織田博孝、田中睦人、藤井堅、慶甲秀（欠）、岡野重雄（以上14名（敬称略））

配布資料：

- ・6-0 第5回議事録案
- ・6-1 新しい高性能鋼と利用技術に関する調査研究小委員会名簿
- ・6-2 新しい高性能鋼材と利用技術に関する調査研究小委員会委員一覧表
- ・6-3 第6回高性能鋼小委開催案内
- ・6-4 2007年度米国鋼橋市場動向調査報告書
- ・6-5 橋梁用高性能鋼BHSの利用技術開発
- ・6-6 競争力アップの次の一手—一次世代鋼橋設計法の開発—
- ・6-7 橋梁用高性能鋼材BHSによる鋼橋の合理化

■ 議事

1. 前回議事録確認（本間委員長）
2. 話題提供：米国鋼橋市場調査の報告（本間委員長）
 - ・Power Point, 6-4資料を用いて、高性能鋼橋梁の開発とプロモーション、適用実態調査、耐候性鋼橋梁普及の現状と対策（凍結防止剤使用環境含む）、米国橋梁劣化更新プログラムと対策の現状について、説明があり、質疑応答があった。
 - ・HPSの普及に関連して、米国では現時点約400橋の施工実績がある。新技術採用時には補助金制度があり、普及を後押ししている。HPS採用のキーワードは①Long Span ②Shallow ③Hybrid で土工、下部工を含めたコスト削減が図られている。Hybridの定義が一段面異強度材料の使用ということであれば、国内鉄道では以前から採用しているとの紹介があった。
 - ・耐候性鋼関連では、米国での耐候性鋼橋梁比率は約45%で、NJTPAでは新設・拡張は100%耐候性鋼橋梁を採用し、照明柱・標識柱も耐候性鋼で製作している。再塗装の工費や環境対応を考慮して耐候性鋼を採用している。凍結防止剤対策は、基本的には漏水などシール対策で、いかに使うかを視点に取組んでいる姿勢とのことであった。
3. 話題提供：ミヨー高架橋の施工方法（保坂委員）
 - ・Discoveryで放映された番組の録画DVDを用いて、ミヨー高架橋の施工順序、施工方法について確認した。
4. 話題提供：橋梁用高性能鋼BHSの利用技術開発（田中委員、本間委員長）
 - ・南北水路橋向けBHS500鋼製造実績紹介と試設計によるコスト削減などの紹介があった。
5. 話題提供：競争力アップの次の一手—一次世代鋼橋設計法の開発—（織田委員）
6. 話題提供：橋梁用高性能鋼材BHSによる鋼橋の合理化（織田委員）
 - ・創造プロジェクト(2003/3)で試設計した鉸桁の例が提示され、本委員会ではトラス橋などの構造についての試設計を検討していきたいとの紹介があった。
7. 小委員会WGとして、設計法WGおよび製作WGに分かれ、今後の各WGの活動目標を再確認した。また、各WGで今後の活動に関して、意見交換を行った。
8. 次回委員会について
 - 6月11日(水)土木学会、14:00～（F会議室）（予定）とした。
 - － 道路橋示方書改訂について、各WG活動について
9. その他
 - (1) 議事録作成について
 - ・委員名簿順に行っていくこととした(次回以降、鷹羽→澁谷→渡邊・・・)。

以上